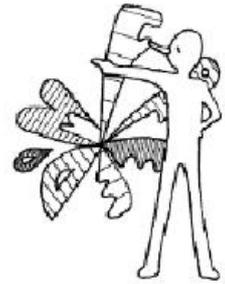


Freedom



こうこうせい じんけんこうほうし だい ごう
高校生の人権広報誌 “Freedom” 第6号

ねん がつ にちほつこう
2011年 3月31日発行

へんしゅう
編集 “Freedom” 編集スタッフ

な けんこうとうがっこうじんけんきょういくけんきゅうかい
発行 奈良県高等学校人権教育研究会

まいつき たし
毎月11日は「人権を確かめあう日」

こん かい しん さい ひ さい かた が た
今回の震災により被災された方々に、
こころ み ま もう あ
心よりお見舞いを申し上げます。



“Freedom”では「高校生からのメッセージ」を、高人教ホームページ内の「特設
ページ」に掲載していきます。ご覧ください。

※「高校生の人権広報誌“Freedom”特設ページ」

<<http://www1.kcn.ne.jp/~kodokyo/10FreedomTokusetu.html>>

ひと ぼう さい み らい た ず
『人と防災未来センター』を訪ねて



はんしん あわ じ だいしんさい いま ねんまえ がつ にち お たか だ
阪神・淡路大震災は、今から16年前の1月17日に起こりました。高田
しょうぎょうこうこう めい さくねん ひと ぼうさい み らい しゅざい しん
商業高校のスタッフ3名は、昨年「人と防災未来センター」を取材し、震
さい きょうくん ひとびと つな きずな き こう
災の教訓や、人々を繋いだ絆について寄稿してくれました。

ねん がつ にち わたし にん はんしん あわ じ だいしんさい き ねん ひと
2010年の12月28日、私たち3人は、阪神・淡路大震災記念「人と防
災未来センター」をおとず 訪れました。それぞれがこの施設を見学して学んだことな
し せつ けんがく まな
どをお伝えしたいと思ひます。
つた おも

また、今回の震災に何かできないかと募金活動をしたメンバーもいましたが、被災地の復興を支援するためにも、もっと阪神・淡路大震災に学んでいきたいと考えています。

「人と防災未来センター」は、阪神・淡路大震災から得た貴重な教訓を世界共有の財産として後世に継承し、国内外の地震災害による被害軽減に貢献すること、および生命の尊さ、共生の大切さを世界に発信することを目的に設立されました。まず、4階にある震災迫体験フロアでは、阪神・淡路大震災のすさまじさを迫力ある大型映像と音響で7分間体感しました。激しく地面が揺れ、建物が次々に破壊されていく映像のあまりの恐ろしさに思わずうつむいてしまう程でした。また、地震直後の町並みをリアルに再現したジオラマ模型の中を歩いたり、復興に至るまでの街と人を再現した15分のドラマを見たりしました。私が一番印象に残ったのは、私の祖父ぐらゐの歳の方から、体験談を聞くことができたことです。身内を亡くす悲しさを肌で感じ、心が痛くなりました。私は地震についてあまり深く考えていませんでした。地震があった場所には、水や食料など生きていくのに最低限必要なものもなくなります。しかし、他府県からも温かいみそ汁が直接配られたり、多くの人のお励みがありました。今の神戸の街に戻るまで、たくさんの人々が助け合い、支えあいました。そして、人の素晴らしさ、温かさ、そして、愛があったのです。私は今回の見学で、他人事ではなく、地震を含めて常に自然災害とは背中合わせなんだという意識を持たなければいけないとも思いました。(T・K)



「人と防災未来センター」では、阪神・淡路大震災が起きたときの神戸の様子や、震災後の人々の生活を知り、多くのことを学ぶことができました。まずは地震発生時の神戸の様子をCGで再現した映像を見ました。CGだということが分かっているのに、恐怖を感じました。しかし、実際、震災に遭った方の恐怖に比べれば大したことはないと思います。あるフロアでは、そんな被災者の方の当時の不安や恐怖について綴られた資料を読むことができます。その内容は、どれも本当にひどいものでした。気がつけば、天井の下敷きになって動けなくなっていたり、自分の家族ががれきの下にいることを知りながら、どうすることもできなかつたりと、読んでいると心が痛むものばかりでした。けれども、そんな話の中にも、全然知らない街の人達が、必死になって自分を助けてくれた

というものがあって、そんな時だからこそ、分かる人の温かさっていいなあと思いました。今回の見学で、自分の住んでいるところはこんな地震に遭うわけがないと、思っている場合ではないということを、改めて実感しました。地震などの天災は人間の力ではどうすることもできません。しかし、地震による被害は、人々の力で、少しでも小さくすることはできます。まず、防災に対する知識をみんながもって、自然災害に対応できる備えが大切だと思います。

(M・Y)

12月28日に、神戸市にある「人と防災未来センター」に見学に行きました。そこでは阪神・淡路大震災の再現映像を見ることができます。建物が嘘のように崩れ、道路にもすぐにひびが入り車が走れなくなった震災の様子が再現されていました。展示コーナーでは震災後、神戸がどのようにして立ち直ったかという復興の足跡を見ることができました。家族を捜して残した伝言や、震災についての詩、外国から贈られた物なども展示されていました。たくさんの人々に支えられて神戸が復興していったことがわかりました。私が住んでいる奈良県は、地震などの被害が少なく、津波の心配などありませんから、マグニチュード七・三だと言われても実感が湧かなかったのですが、今回見学に行って、六〇〇〇人以上の方が亡くなった地震を忘れてはいけなしいと思いました。そして、「人と防災未来センター」がこれからも阪神・淡路大震災を伝えていってほしいと思いました。



(M・K)

※「人と防災未来センター」の場所は、神戸市中央区脇浜海岸通（阪神電車の岩屋駅から徒歩10分）。HPは<http://www.dri.ne.jp/index.html>

※阪神・淡路大震災は、障害のある人や高齢者、神戸市長田区を中心に居住する多くの在日コリアンや、被差別部落の住民など、さまざまな立場の人々に、より深刻な被害をもたらしました。復興に取り組む過程で、多くの人々の協力で、人権と多文化共生のまちづくりが各地で進められています。この経験が、今回の震災に遭われた方々への支援や、復興に活かされることを願っています。

大阪人権博物館『リバティおおさか』を訪ねて

毎年いろいろな場所を訪ねる、高解研の「夏期研修会」
…昨年の様子を、スタッフに紹介してもらいました

昨年の7月25日、大阪人権博物館『リバティおおさか』で高解研夏期研修会が行われました。研修会が行われた地域は、「渡邊（わたなべ）」「西浜」「浪速（なにわ）」と300年の歴史を有し、「皮革の町」「太鼓の町」として発展してきました。

渡邊村の人々は、大阪城の「時太鼓」や四天王寺の「火焰（かえん）太鼓」などの皮革産業を担いました。また、大阪市中の火消しなどの役目を負いながらも、川と川に挟まれた危険な地域に住まわされ差別を受けてきたので、部落差別撤廃をめざし、全国水平社が岡崎公会堂で結成された同年8月に、この地に「西浜水平社」を結成し、大阪における解放運動の中心となりました。

今回、この研修会に参加してさまざまな差別があることを学びましたが、部落差別をはじめ多くの差別への怒りを人々が忘れないためにも、これからも大阪人権博物館が人々に伝えていってほしいと思いました。

（高田商業高校 M・K）

私たちは夏期研修会として『リバティおおさか』に行きました。午前中は旧渡邊村を回り、午後からは博物館の見学や他校生との意見交換をし、交流を深めました。

大阪の渡邊村は太鼓が有名でベンチが太鼓の形だったり、からくり時計が12時になると太鼓の音を伝えたりと太鼓の街らしい工夫がされています。この地域は人権をキーワードとした「まちづくり」をしています。部落とその周辺住民を含めた地域社会のあり方を問い、差別を克服し、地域社会で豊かな関係をつくることをめざした取り組みが進められていることを多くの人に知ってもらいたいそうです。

午後からは、くじ引きでグループに分かれて、人権問題のテーマを設定して博物館で調べ、他校生の人達と意見を出し合って、まとめたりしました。私のグループはアイヌ民族について調べましたが、民族の復権と差別撤廃運動や現在の観光と民族の文化について、また、差別を受けている人の主張や活動の体験談

などを知り、話し合いました。日本は「単一民族国家」ではなく、さまざまな民族で構成されている社会だということを知りました。

私も、この研修を通して、差別について少し深く知ることができ、考えることができました。
(高田商業高校 T・K)

7月25日、大阪市浪速区にある大阪人権博物館『リバティおおさか』とその周辺を見学しました。このあたりは江戸時代、渡邊村という被差別部落でした。もともと、渡邊村は大阪城の近くにありましたが、城下町をつくるために住んでいたところを追い出されてしまいました。それから、300年の間、何度も移転を繰り返し、ようやく現在の場所に落ち着きました。渡邊村では主に動物の皮を使った太鼓などが多く作られており、今でも浪速西といえば太鼓だと言われるほど有名です。しかし、死んだ牛馬をさわることはけがれたことだとされ、渡邊村は周囲から差別されるようになりました。残念ながら差別は今も残っています。浪速西ではこのような差別をなくすために、さまざまな活動を行っています。

浪速西では地元の青年団によって結成された「怒」という太鼓集団があります。「怒」という名前には、世の中すべての差別への怒りという思いが込められているそうです。太鼓の皮をはる職人は差別の目を向けられることはあっても注目はされませんが、太鼓を演奏するアーティストの方は注目されているので、地元で作られた太鼓を地元の人が演奏して、もっと多くの人に浪速のことを知ってもらおうと「怒」が結成されたそうです。「怒」の太鼓演奏は、『リバティおおさか』近くの浪速玉姫公園のからくり時計で聞くことができます。もし、このあたりを訪れることがあれば、ぜひ、見て行ってほしいとのことでした。

今回の研修では人権について真剣に考える大変良い機会になりました。もし、この記事を読んで、少しでも差別について考えてくださったなら、とてもうれしいです。

(高田商業高校 M・Y)



高解研 研修交流会参加体験記

～手話で話そう～

2010年度 第2回目の高解研の研修・交流会が、1月30日に、桜井市中央公民館で開催されました。今回は、2校6名が参加しました。

午前中は、手話を使った挨拶や自己紹介の仕方を覚えました。また、歌「いい日旅立ち」を手話で歌いました。これをきっかけに、少しずつでも手話を覚えて話してみたいという感想がありました。

昼食は韓国料理のチヂミとわかめ・牛肉のスープを作って食べました。今回は、参加者が少なかったため、それぞれ学校ごとに分かれて作りましたが、美味しく出来上がったので嬉しかったです。



午後からは、在日コリアンについて、また部落差別のことについて、お話を聞きました。とても身近であり、複雑である差別と向き合うことは大変だけれど大切なことだと思いました。また、今高校生である私たちの世代が、どのようにそれを受け止めて行動するのが非常に重要なのだと改めて思いました。研修会の最後に、参加者6人が一言ずつ自分の意見を述べただけでも、考え方や話し方は各々違って、驚きや発見もあったので、人との交流は大切だと思いました。

たかだ こうこう
(高田高校 T)

※「高解研」は奈良県高等学校解放研等連絡会議の略称です。当日手話を教えてくださった、高田高校ヒューマンライツクラブ顧問の入江先生と部員の皆さんに感謝します。

★卒業した先輩からの言葉です！★

Freedomに寄せて…

《解放研活動をしてきて》

この3年間の活動は僕にとって新鮮なことが多く、活動を始める前よりもずっと一つのものごとについて、考えを深められるようになりました。

僕は活動の中で、人権という言葉にほとんどの人が興味をもっていないことを実感しました。自分たちの暮らしにはいろんな側面があり、つらい思いをしている人がいるということをもっとたくさんの人に知ってもらいたいです。

こおりやまこうこう
(郡山高校スタッフ)

こうこうせい じんけんこうほう し だい ごう ねん がつ にちはっこう
高校生の人権広報誌 “Freedom” 第6号 (2011年3月31日発行)

へんしゅう
編集 “Freedom” 編集スタッフ

な ら けんこうとうがっこうじんけんきょういくけんきゅうかい
発行 奈良県高等学校人権教育研究会

〒630-8133 奈良市大安寺1-23-1 奈良県解放センター内

TEL 0742(62)5555 FAX 0742(62)5568

E-mail kodokyo@kcn.ne.jp

HP <http://www1.kcn.ne.jp/~kodokyo/>

※ ご意見・ご感想や投稿などは、各校人権教育担当の先生または上記までお寄せください。

※ 本誌のバックナンバーは、高人教ホームページの「活動報告」にて閲覧できます。(「高人教」で検索してください)

※ 本誌の発行は奈良県教育委員会の事業委託をうけています。